

# 2019 アジア選手権報告書

参加団体名：立命館大学	
氏名：鈴木 侑奈	種目：女子舵手なしペア

## (1) レース展開、結果、反省点

〈予選〉：1. KOR 2. TPE 3. INA 4. JPN

〈結果〉：1位 JPN 2位 KOR 3位 INA 4位 TPE

予選1位通過という厳しい条件と大学で初めての日本代表としての大会ということでの緊張感を持ってレースに挑むことができた。レース展開としてはスタートで韓国に出られたが、焦らずコンスタントに入った。コンスタントでは、自分たちのいいリズムで漕ぐことができぐんぐん相手を離しトップでゴール。反省点は、コンスタントでレートが低かったことである。最低でもレート33をキープしていれば、軽いリズムで楽に艇を進められ余裕を持って漕げていたと感じた。

〈決勝〉：1. KOR 2. VIE 3. CHN 4. JPN 5. INA 6. TPE

〈結果〉：1位 CHN 2位 JPN 3位 VIE 4位 KOR 5位 INA 6位 TPE

決勝は、風の波もなくとても良いコンディションでのレースだった。最後のレースだから思い切って挑もうと話しあった。レース展開は、スタートから自分たちのペースで飛び出し500mまで先頭に出ていたものの、中盤以降の中国の力強いストロークで追い上げてくる時に私たちが蛇行してしまい、その間に差されてしまった。そのまま差し返すことができず、2位でゴールした。

優勝することを目標にこれまで練習してきたがやはりあと少しで勝つことができたレースであったのに、中盤のバテと肝心なところでの蛇行がこのレースの敗因であり反省点と感じた。しかし、どのレースも守りに入らず挑戦的に勝負できたところや、予選での反省点であったコンスタントで高い位置でのレートキープは上手にできたので、自信になったのではないと思う。

## (2) 国際大会を経験して良かったこと、困ったこと、今後のボート人生にどのように影響するか。

国内でのレースとは違った雰囲気やレースをすること、強豪の中国相手に序盤から攻めたレースをできたこと、国際レベルの選手と競い合えたことは、今後のボート人生に必ず生きていくと感じた。今回の結果を踏まえて、現状に満足せず、より高みを目指してトレーニングの励む必要があると感じた。この大会で感じた悔しさを日常の練習のモチベーションにし、国内ではもちろん、海外でも活躍できる選手になれるようトレーニングを積んでいきたい。最後に、この大会に関わってくださった大勢のスタッフの方や先生方には大変お世話になりました。貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。